

## ★NATO脱退にこだわるトランプ=米紙ニューヨーク・タイムズ

米紙NYT 1月14日付は、ロシアへの新たな懸念のなか、トランプ大統領がNATO脱退を補佐官たちと協議」と題した記事を掲載、トランプ大統領によるNATO軽視を補佐官たちが必死に制止する動きを詳しく伝えた。概要は次の通り。

70年間ソ連とロシアからの侵略を抑えてきた米欧加の軍事同盟、NATOの弱体化ほどプーチン大統領が望んでいるものはない。

昨年、トランプはNATOの破壊に等しい米国の脱退を示唆した。複数の米政府高官がNYTに語ったところでは、2018年にトランプは数回にわたってNATOから脱退したいと私的に語った。同盟を支持するこれらの現職および元当局者たちは、同盟諸国の軍事費が大統領のいう目標に及ばないなか、彼がまた脅しをかけるのではないかと恐れている。

これらの高官たちによると、昨夏の騒がしいNATO首脳会議の日々、トランプは、米国にとって乱費にしかならない軍事同盟の理由がわからないと安全保障担当の高官たちにいった。その時、マクス国防長官とボルトン補佐官は緊急に対応し、米戦略を軌道からはずさないように撤退への言及をさせないようにした。数十年にわたる欧州における米国の影響力を後退させ、ロシアを大胆にさせかねないからだ。

ところがいまもトランプ大統領が脱退したい旨を繰り返すので当局者には新たに心配が広がっている。側近たちに秘密でトランプがプーチンと歓談を続け、ロシア疑惑のFBIの調査について懸念が増大している最中だからだ。オバマ政権で国務次官補を務めたフローノイ氏は、同盟からの撤退は「大統領が米国の利益に与える最も有害な動き」と指摘する。党派をこえて歴代政権が70年間丹精をこめて作り上げた歴史上もっとも強力で有利な同盟を破壊しかねない」という。スタブリディス元NATO軍司令官も「比類なき地政学的な誤り」とし、「構想を口にするだけでなく実行するとなればプーチンへの世紀の贈物になる」と指摘する。

高官たちは匿名を条件に、同盟維持のために内部できわめてセンシティブな努力をしていると語った。月曜日(1/14)ホワイトハウスがコメントを求められた後、ある高官は昨年7月のトランプ大統領の言明を指摘した。大統領はこの時、

米国の NATO への誓約は「きわめて強力」で同盟は「重要」と語っていた。高官はそれ以上の言及をさけた。米の安保当局者たちによれば、ロシアは 2014 年のクリミア併合ののち米欧の連帯を弱めることに集中している。目標は脅威である NATO を倒すことだ。ロシアが米国の選挙に介入し、旧衛星国が同盟参加を阻んでいる狙いは、隣の敵である NATO 同盟を弱体化することだと、当局者たちは強調する。NATO が弱体化すれば、プーチンはより自由に行動ができ、米欧と釣り合いをとることができる。米国が同盟から脱退すれば、プーチンが行動に移そうとしてきたすべてを成し遂げられるだろう。

トランプが最初に脱退の可能性にふれたとき、高官たちは彼が本気かどうかわからなかった。しかし繰り返すこと数回におよんで、心配を募らせた。トランプが外国との同盟や国際組織への米国の誓約を忌み嫌っていることは秘密ではない。大統領はくりかえし、軍事同盟やパリ協定、TPP から脱退すると繰り返した。韓国と日本からの米軍撤退も表明し、米主導の対 IS 連合諸国とも相談なしにシリアからの米軍撤退を表明した。

NATO は 4 月に 70 周年を記念する首脳会議をワシントンで開くことを計画した。クリントン大統領が 1999 年に主催した同種のものだが、今年は外相会議にグレードが落とされた。外交官たちのなかにはワシントンでトランプが首脳会議で同盟に対する新たな攻撃をするのではないかと懸念する人たちがいた。首脳たちは 2019 年の末の会合を計画しているが、ワシントンではない。

トランプが撤退すると脅したために、高官たちは緊急に対応して昨年 7 月のブリュッセルの年次首脳会議が大惨事になるのを防いだ。高官たちはすでに、NATO 大使にたいして NATO の数項目の目標について合意するよう求めた。このなかにはロシアにたいする共同防衛が含まれているが、それは首脳会議が始まる前で、トランプから隠すためだったが、トランプは手続きをひっくり返した。7 月 12 日の会合は NATO 加入を求めているグルジアとウクライナについてのもので、規定では、同盟国は非加盟国の前で内部問題を議論しないことになっていたが、現場にいた米欧の高官たちによると、トランプは例によって規定にしたがわなかった。彼は欧州諸国の政府が防衛分担を十分負担せず、その分を米国がしていると文句をいった。彼はその場で欧州の首脳たちが支出増の約束をしないといら立ちを示した。何人かの首脳たちが支出のレベルは個々の国の議会が決めることになっていると説明した際も、詳細がわかっていないようであった。

同じ首脳会議の別の集まりでトランプはシュトロテンベルグ事務局長に不意を

突かれたようだった。事務局長はトランプの立場を支持して同盟国に支出増を促し、米国は欧州での支出を増やすなど、模範を示していると称賛した。同席していた高官たちによると、その時トランプは首を回して後部の高官たちをにらみつけた。シュトロテンベルグ事務局長の発言に驚いたことで、自国の支出計画について無知であることをさらけだしてしまったのだった。

トランプは特にドイツのメルケル首相に同国の軍事費が GDP の 1% であることに立ちを示した。それに比して米国は 4% を支出している。同盟諸国は 2% の目標を満たしていないと非難した。そして多くの諸国はどうてう達成できない 4% 増を要求して首脳たちをおどろかせた。彼はまた他の諸国が増額しないなら 2019 年は「米国は我が道をゆく」といって脅した。

メルケル首相の演説中に、トランプはまた外交儀礼を破り、立ち上がってでていった。現場にいた高官たちによると、部屋中にショックの波が広がったが、トランプは部屋を出る前にメルケル首相の後部に歩み寄って、演説を遮り、彼女を偉大な指導者だと呼んだ。人々は驚くと同時に、トランプが指導者への非難を続けなかったことに安堵して拍手をした。NATO 首脳たちは最終的に違いを取り繕って統一した立場を示したが、ブリュッセルデータの 2 日間の会議をへた米欧の当局者たちはともに動揺し、トランプが同盟からの撤退を新たにするのはないかと心配した。

NATO にたいするトランプの疑念は、核心的な信念のようで、イラクの石油を接收したいという願望と同様だと当局者たちはいっている。米国がイラクの石油を接收することはできないといくら説明しても、この問題を数カ月ごとに蒸し返すのだ。同じように、NATO の加盟国問題が解決したと思ったら、また脱退の希望が持ち出される。

トランプによる反 NATO の動きは、議会から反発をうける可能性が十分だ。米国の対ロシア政策は議会共和党がトランプに抵抗する分野で、ロシアへの新たな制裁や昨年 7 月 6 日のヘルシンキでのプーチン大統領との共同会見にたいする批判などがある。ワシントン条約 (NATO 条約) では 13 項により脱退は通告の一年後だ。その間に議会はトランプの企てを阻止しようとするだろう。

「NATO は米国や国際社会の安全に貢献しないとウソの主張を大統領が続けているのは大変なことだ」。そう語るのは、ニューハンプシャー州のシャヒーン議員だ。かれはトランプに軍事同盟から脱退しないように求め決議案を支持した

議員のひとりだ。「上院は NATO を守る分別はあり、覚悟もある」と語る。NATO にたいする世論の支持は引き続き強い。だが同盟はより党派的な問題になっている。レーガン研究所の調査によれば民主党支持者がより熱烈に支持するのにたいし、共和党支持者の支持は弱い。元NATO大使で共和党上院議員を務めたハチソン氏は議会で同盟への支持固めをめざして、超党派グループの結成に動いている。しかし議会が阻止に動いたとしても、トランプによる脱退声明はNATOに酷い打撃を与えるだろう。ロシアの脅威を感じている同盟諸国はトランプが軍隊に支援の命令をだすかどうかについて極めて懐疑的だ。

マチス前国防長官は先月の辞任の手紙のなかで、同盟に対する誓約を特別にのべて、トランプの方針に暗黙の批判を行った。彼は初め次のNATO会議がある2月末まで職にとどまるといっていたが、トランプは新年を待たずに解任した。シャナハン代行は同盟支持派と考えられている。しかし国防総省は大統領にノーというべきではないと語っている。欧米の当局者たちによれば、元NATO司令官のマチス氏がいたればこそ、同盟国は安心して一人のトランプ政権当局者には彼らの支持があるといえた。しかしペンタゴンから彼が去った今、欧州の外交官たちは安全の毛布がもはや失われたと不安を募らせている。

(以上)